
あたしと弱味と仮彼女

近衛龍一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたしと弱味と仮彼女

【Nコード】

N9629Z

【作者名】

近衛龍一

【あらすじ】

二年生に進級した日の始業式。

文月学園Aクラス所属の木下優子は誰にも見られたくないものを学園一の完璧少年、水谷に見つけられてしまう。

どうしてもバラされたくない優子は、水谷の出した『俺の仮彼女になれ』という条件を受け入れる。

水谷の仮彼女として始まった優子の新学年の生活は一体どうなっていくのか……？

「えぐっ……どうしてあなたは……っ……あたしが泣いてるときに……

…ひぐつ…いつも側にいるのよお……」

「そこに泣いてるお前がいるからだろうが」

バカテスにはあまり見ない純愛系(?)恋愛ストーリーっ!!

最悪な一日目（前書き）

新連載ですっ！

更新ペースは不定期ですがよろしくお願ひします！！

最悪な一日目

「あれ〜？ どこにやっちゃったのかしら……」

それは二年生に進級した始業式の日のこと。

あたし、木下優子は放課後、探し物をしていた。

「多分あるとすればこの辺りのはずなんだけど……」

必死になってとある探し物を探す。

普通であればまた明日にでも、となるのだが、今回ばかりは事情が違ふ。

それは見つければ今までに築き上げてきたものを一瞬にして崩すような代物。

命に代えても誰かに見つかるわけにはいかないのだ。

幸い、もうクラスの皆は帰っているので大丈夫。

どれだけ時間をかけても必ず見つけ出さなければ……

なんて考えながらふと時計を見ると時間は5時。

生徒が始業式に残っている時間ではない。

よし、ともう一度気合を入れ直して探し始めたその時だった。

ガラッ

教室の扉が開き、あたしは慌てて扉を振り向く。

「えっと……水谷君……だっかしら？ どうしたの……？」

そこに立っていたのは同じAクラスの生徒。

クラスが変わったばかりなのでクラスメイトを全員覚えていてるわけではないのだが、彼のことは嫌でも頭に入っていた。

成績優秀、容姿端麗。

今はやっていないみたいだけど、一年生の頃は野球部のエースで、運動神経も抜群という恵まれた超完璧な男子。

HRの時、Aクラスの女子の大半はみんな水谷君に釘付けだった。だからこそ新しいクラスになったにも関わらず覚えていたのであり、今彼がここにいることが不思議なのだ。

「それは俺の台詞だ木下。お前こそこんな時間に何をしているんだ？」

「あ、えっと……ちょっと探し物を……」

「探し物が……」

顎に手を当て少し考え込む水谷君。

うん、この容姿ならあれだけ囃し立てられても仕方ないか。

なんてどうでもいい事を考えていると、水谷君はバックから一つの物を取り出して言った。

「もしかして、お前の探してる物ってこれか？」

さっと取り出したものは男と男が抱き合っている絵が描かれている本。

あ、あれは………！

「そ、それあた………！」

『それあたしの!』と途中まで言ったところでハツとなる。
ま、まずい!

「ほう? そうか。やっぱりこれは木下の物だったのか」

パラパラと本を捲りながら確認を取ってくる水谷君。
さ、最悪だ……!

「まさか優等生の木下がこんなBL本を読んでいるとは驚きだな」
「……っ! か、返してよ……」

「ん、いいぞ」

サツと差し出された本を素早く受け取って抱え込む。
さて、ここからどうしようか……

「木下、このこと黙ってて欲しいか?」

「え……? いいの……?」

「ああ、別にいいぞ」

た、助かった!

水谷君はいい人だ!

ホツと安心しているのも束の間、あたしはこのことをこの男に知られたことを後悔することになってしまった。

「ただし、条件がある」

「じよ、条件……?」

「俺の仮彼女になれ」

「え…………?」

あたしの高校二年生の春は、最悪の一日から始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9629z/>

あたしと弱味と仮彼女

2011年12月30日00時55分発行